

2024年(令和6年)8月2日(金)

環境保全 三島に習う

源兵衛川の再生などの実績がある三島市のNPO法人、グラウンドワーク三島(GW三島)のまちづくりのノウハウを台湾に導入しようという動きが進んでいる。目指すのはグラウンドワーク台湾(GW台湾)の設立。7月19日から26日まで関係者24人が台湾からGW三島を訪れ、水辺の再生や森づくりなどの活動を学び、意見交換をした。

【石川宏】

グラウンドワーク 台湾関係者が来訪

台湾から訪れたのは、85万人に及ぶという。生涯学習を担う社区大学(コミュニティカレッジ)や、その全国組織、社区大学全国促進会などの一行。社区大学は、政府の補助を受ける半ば公設の組織で、全島に85カ所あり、受講者は延べ1

25日には、三島商工会議所大会議室で意見交換会が開かれた。社区大学全国促進会の楊志彬事務



グラウンドワーク三島と台湾側との意見交換会。三島市一番町で。

研修生本格受け入れへ

局長は「台湾でも川の環境保全への関心が高まり、川づくりの予算はかつてのGW三島の予算より多い。しかし、短期間で変革したいという意識が強く、成果が上がっていない」と嘆いた。実践大学の李宜欣・助教は「GW三島はビジョンだけでなく、実践力も強いと分かった。一方、台湾の方が女性の地域づくりのリーダーが多い」と述べた。

GW三島の渡辺博専務理事は、社区大学とGW三島がインターシッブ協定を結ぶことを提案。台湾からの研修生を受け入れることが決まった。

グラウンドワークは、住民と行政、企業が協力して、環境保全や地域再生、まちづくりなどに取り組む仕組み。サッチャー政権下のイギリスでの公共事業の民営化の動きの中で1980年代に始まった。GW三島は92年に設立され、99年にNPO法人格を取得した。10年には日韓国際環境賞(毎日新聞社・朝鮮日報社主催)を受賞している。